

『大会発表論文集』(Proceedings) 執筆規定

第 27 回 『大会発表論文集』(Proceedings) (第 20 号)

日本語用論学会では、2005 年度より、毎年の大会で発表された論文をとりまとめ、大会後に『大会発表論文集』を発行しています。つきましては、大会の「研究発表」「ポスター発表」「ワークショップ」「会長就任講演」「特別講義」「シンポジウム」にて発表されました皆様は、以下の要領で原稿をご提出くださいますようお願いいたします（なお、投稿を希望されない方は提出不要です）。

※投稿に際しては、以下の執筆規定を厳守するようお願いいたします。

※不備がある場合は掲載されないことがあります。例年、独自の様式で投稿されたり、締切後に提出・差し替えを希望されたりするなど、編集業務に支障をきたす事例が散見されます。本執筆規定に沿った投稿をお願い申し上げます。

執筆規定

1. 用紙・ページ数

- A4 サイズ、横書き（段組みは 1 段）、8 ページ以内（注：要旨、参考文献を含む）
- ワークショップについては、「発表ごと」に 8 ページ以内
- ワークショップ全体の概要については、任意で追加してもよい（4 ページ以内）

2. 書式

- a. 余白は上下 30mm 左右 25mm とする。すべて横書き
 - 日本語の場合：10.5 ポイント 1 行 38 文字 1 ページ 32 行
 - 英語の場合：12 ポイント 1 ページ 32 行
 - 推奨フォント：日本語 MS 明朝、游明朝など
 - 英語 Times New Roman, Palatino Linotype など
- b. 原稿の 1 ページ目は、タイトル（中央揃え）、氏名（右揃え）、所属（E-mail アドレスは任意）を記し、そのあと 2 行空けて要旨、1 行空けてキーワード、2 行空けて本文を続ける。

※共著論文の場合は、著者ごとに「氏名（所属）」の様式にて右揃えで記す。

- c. 「はじめに」または「序論」の節は「0.」からではなく、「1.」から始める
- d. 例文の前後は1行、各節の前は1行空ける
- e. 原稿のヘッダー・フッターには何も記載しない
- f. 注を付ける場合は巻末とし、本文と参照文献の間にまとめて入れる
- g. 参照文献のフォーマットは『語用論研究』の投稿規定・スタイルシートに従うこと
(本学会のHP https://pragmatics.gr.jp/journal/contribution_rule.html 参照)

特にご留意いただきたいこと

- (1) 英語の文献と日本語の文献を混在させて、アルファベット順に並べる
- (2) 英語の文献名は、内容語の語頭は大文字、機能語の語頭は小文字にする

3. 要旨

- a. 要旨は（日本語論文も含め）全て英語によるものとし、約 100 words で書く
- b. 要旨の前には <Abstract> (A は大文字) と記し、行頭をインデントしない

4. キーワード

- a. 要旨の下に1行空けて以下のように記す (5つ以内)
【キーワード】: ○○・△△・□□・◇◇・▽▽ (日本語版)
【Keywords】: ○○, △△, □□, ◇◇, ▽▽ (英語版)
- b. キーワードと本文との間は2行空ける

その他の注意事項

1. 論文の内容について

内容は、大会発表に沿ったものとする。タイトルの変更は不可だが、内容について、発表時のコメントをふまえて修正を加えることは妨げない。

2. 使用言語について

発表言語に合わせる

3. 『語用論研究』への投稿について

『大会発表論文集』に掲載した内容は、さらに発展させて『語用論研究』に投稿することができる。その場合は、必ず十分な加筆・修正を施すこと。

原稿の提出方法

原稿ファイルは[こちら](#)から提出する。但し、シンポジウムやワークショップの場合は、代表者が全員分を取りまとめて投稿する。

原稿の提出期限

2025年3月18日（火）23:59（日本時間）

*上記の締切日時時点で未提出のものは「投稿を希望されない」と判断しますので、ご了承ください。

お問い合わせ先

日本語用論学会 大会総務委員会 発表論文集（プロシーディングズ）担当：中馬隼人
proceedings@pragmatics.gr.jp

※投稿に関するお問い合わせは、2025年3月11日（火）までお願いいたします。